

2025 年 3 月吉日

三重大学

学長 伊藤 正明 殿

動物実験に関する検証結果の報告について

貴機関より依頼のありました、動物実験の実施状況に関する検証について、提出された資料と訪問調査により検証結果をまとめましたので、別添のとおり報告いたします。検証実施証明書も同封させていただきます。

なお、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」では、検証の結果を、インターネットの利用、年報の配布その他の適切な方法により公表することとなっておりますので、申し添えます。

公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会 委員長 森松 正美



No.2025-22

Japanese Association for Laboratory Animal Sciences



CERTIFICATE

presidentDr. Masaaki Ito
Mie University

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certifies that Mie University received “Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2024”.

Sincerely yours

14 March,2025

Atsuo OGURA, Ph. D., D.V.M
President
JALAS

Masami MORIMATSU, Ph.D.,
D.V.M., DJCLAM
Chairman
Assessment and Verification
Committee, JALAS

動物実験に関する検証結果報告書

国立大学法人三重大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2025 年 3 月

2025 年 3 月 14 日

国立大学法人 三重大学

学長 伊藤正明 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会

理事長 小倉淳郎



対象機関：国立大学法人 三重大学

申請年月日：2024 年 7 月 30 日

訪問調査年月日：2024 年 11 月 15 日

調査員：鈴木 真、三好一郎、西島和俊

検証の総評

国立大学法人三重大学は 5 学部 6 研究科を擁する総合大学である。動物実験は、医学系研究科等の 5 部局で実施されている。文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に適合した「三重大学動物実験取扱規程（以下「動物実験取扱規程」という。）」と関連規程等を策定し、学長の責任の下で適正に動物実験が実施されており、動物実験委員会を設置して動物実験計画の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価、情報公開などに対応する体制が整備されている。主たる飼養保管施設である研究基盤推進機構先端科学研究支援センター動物実験施設（以下「先端科学研究支援センター」という。）、生物資源学研究科共同実験室D棟（以下「生物資源学D棟」という。）並びに生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場（以下「附帯施設農場」という。）では、マウス、ラット、ハムスターのげっ歯類、ウサギ、

イヌ、ブタ、ヒツジ、ウシ等が環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して適切に飼養保管されている。実験動物に関して優れた識見を有する獣医師を外部委員として招聘して、動物実験計画書の審査や飼養保管施設の調査等の動物実験委員会の機能を強化している点は評価できる。一方、飼養保管マニュアルや実験計画書審査体制に部分的な不整合があることから、今後動物実験委員会を中心に適正な動物実験の実施並びに飼養保管基準に則した適切な飼養保管による機関管理体制の実効性の向上に努められたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
☒ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
☐ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
動物実験取扱規程並びに「三重大学動物実験取扱細則」が定められ、その内容は基本指針に則したものである。したがって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
☒ 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
☐ 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 機関内規程が定められていない。
4) 改善に向けた意見
特になし。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検・評価の妥当性
基本指針に則した役割の委員と外部委員（獣医師 1 名）を含む 9 名からなる動物実験委員会により、動物実験計画書の審査、動物実験の実施状況及び結果の把握、実験動物飼養保管施設及び実験室の調査、教育訓練等が実施されている。しかしながら、前回の外部検証で指摘された委員構成 3 要件が規程等に明文化されていない。したがって、動物実験委員会について、「基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。」との自己点検・評価の結果であるが、「動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。」とする。
3) 検証の結果
☐ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
☒ 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。
☐ 動物実験委員会は設置されていない。
4) 改善に向けた意見
基本指針に則した 3 要件の委員構成を規程等に明文化されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 □ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 動物実験取扱規程及び「三重大学動物実験委員会規程」「三重大学動物実験取扱細則」において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続きが規定され、基本指針に則した動物実験の実施体制が整備されている。また、これらの手続きに必要な各種様式が概ね支障なく定められている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見 動物実験の適正な実施をさらに推進するために、別紙様式第 6「動物実験完了（中止）報告書」に動物実験で得られた成果を明記すること、別紙様式第 10「動物実験計画再申請書」には再申請する理由及び目的を明記するなど、一部の項目や内容などを再検討されたい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 □ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 「三重大学組換え DNA 実験安全管理規程」「三重大学病原体等安全管理規程」「三重大学生命科学研究支援センター動物実験施設利用規程」「国立大学法人三重大学毒物及び劇物管理規程」「三重大学研究基盤推進機構先端科学研究支援センターアイソトープ実験施設放射線障害予防規程」等、安全管理に注意を要する動物実験に関連する規程等が定められ、実施体制が整備されている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ■ 該当する動物実験の実施体制が定められている。 □ 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 □ 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

先端科学研究センターマニュアル、附帯施設農場飼養衛生管理マニュアル、生物資源学D棟飼養衛生管理マニュアル等、実験動物の飼養保管に関連する規程等が整備されている。また、緊急連絡体制や事故対応マニュアルも整備されている。したがって、実験動物の飼養保管の実施体制についての自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

生物資源学D棟及び附帯施設農場の衛生管理マニュアルは、飼養保管に関して一部修正が必要である。飼養保管施設の現状を把握し、飼養保管体制の整備を再確認されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

三重大学は、2013 年度に「動物実験の相互検証プログラム」に基づく外部検証を受けており、今回は「第2期外部検証プログラム」に基づく2回目の外部検証である。前回の外部検証の結果を踏まえ、動物実験の実施体制を再構築し、動物実験の適正化に向けて積極的に取り組む姿勢は評価できる。特に、動物実験取扱規程は令和6年3月26日に改正され、「両生類および魚類の生体を用いる学内の動物実験等にこの規定を適用することができる」ことが新たに規定され、また、家畜を動物実験に利用するための適用除外が削除された。現時点で該当する審査件数は数件に留まり、この改正に対して動物実験委員会による家畜及び両生類や魚類を用いた動物実験計画書の審査体制を整備中である。一方、これらの動物に関する飼養保管は研究者に任されていることから、マニュアル等の整備も急がれる。この意欲的な取り組みを推進するために、家畜及び両生類や魚類を用いる動物実験に関わる実験実施者や飼養者の啓発に努め、一貫した動物実験の機関管理体制の構築に努められたい。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 全学の動物実験委員会が設置され、動物実験計画の審査、実施結果に対する助言、飼養保管施設や実験室の調査、教育訓練、自己点検・評価等、基本指針や機関内規程に定められた動物実験委員会の活動が適正に実施され、議事録も保管されている。なお、動物実験計画書に独自の「動物実験の倫理性に関する自己評価採点に用いる点数評価システム」を設けて、動物実験に用いる動物種によっては自己評価されない項目があるものの、動物実験計画の審査を行っている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 動物実験計画書の動物実験の倫理性に関する自己評価採点に用いる点数評価システムの項目を見直すなど審査体制の整合性の向上を図り、明確な判断基準の下で動物実験計画の審査に努められたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 2023 年度には 130 件の動物実験計画が承認されている。学生実習も、動物実験計画の申請及び承認を必須としている。実験終了時に提出が義務づけられている動物実験完了（中止）報告書は、全て提出されている。したがって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。
- ☐ 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え実験、感染実験、有害化学物質を取扱う実験等の安全管理に注意を要する動物実験は、関連する委員会の間で必要な情報が共有されており、事故等の問題も生じていない。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 該当する動物実験が適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。
- ☐ 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

実験動物の飼養保管は適正に実施されており、作業日誌や日報等の記録〔飼育管理表、飼育管理日報、動物購入（搬入）台帳〕が保存されている。また、各飼養保管施設において実験動物飼養保管状況の自己点検を実施しており、重大な問題は認められない。さらに、動物実験委員会外部委員による調査と指導が行われている。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

- 4) 改善に向けた意見
特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

先端科学研究センターは、極めて良好な状態で維持管理されている。また、生物資源学D棟および附帯施設農場は竣工後年数を経ており経年劣化が著しいが、現場の対応により機能が保たれ適切に管理されている。動物実験施設運営委員会資料・議事録及び動物実験施設管理業務報告書や各種点検報告書も保存されており、現状は維持されている。したがって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特に大動物の飼養保管施設に関しては、老朽化による要修理箇所が散見されることから、実験動物の飼養保管において担保すべき「動物が正常な行動を安全に表現する自由」を阻害しないよう早急に改善等の対策を検討されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

学生を含む動物実験実施者の教育訓練を義務化しており、2023 年度には 198 名が受講している。教育訓練の実施記録や資料、受講者の記録等が適正に保管されており、基本指針に則した教育訓練が実施されている。また、再受講者のための e ラーニングも行われている。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

2009 年度より毎年自己点検・評価が実施され、三重大学動物実験委員会ホームページにて情報公開を実施している。また、機関内規程や関連書類、動物実験実施状況及び飼養保管施設管理状況等も、同ホームページに公開されている。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価は妥当である。

3) 検証の結果

- ☒ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設水産実験所並びに研究基盤推進機構鯨類研究センターにおいて実施されている動物実験についても情報公開に努められたい。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

特になし。

日実動学-外検発 第R7-22号-証

検証実施証明書

三重大学
学長 伊藤 正明 殿

貴機関は、公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会による「動物実験に関する
外部検証事業」による自己点検・評価を行い
その結果に対する検証を本委員会が実施した
ことを証します

2025年3月14日

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉 淳郎

